

令和5年度（2023年度）島根県立大学
国際関係学部 国際関係学科
国際関係コース

総合型選抜（自己推薦）

小論文

【試験時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。

指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから3ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 解答時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

○次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

バーリンは相対主義に対して、このように言っています。「私はコーヒーが好き、あなたはシャンペーンが好き、二人の好みは違っており、それだけのことだ」。これが相対主義であると言って、しかし、ヘルダー¹の見方やヴィーコ²の見方はそうではない、それを多元主義（プルーラリズム）と呼びたいとバーリンは主張します。

①多元主義とは、「人の求める目的は数多く、かつ多様であるが、人々はそれぞれ十分に合理的でかつ人間的であり、お互いに理解し共感し学び合うことができるという考え方である」³。どんなに文化が違い、社会が異なっても、人間は互いに基本的な理解可能性の中に生きている。たとえば、ユダヤ系イギリス人であり、オクスフォードに住むバーリンが、古代ギリシアのプラトンを学び理解し、また中世日本の小説に感動することができるのは、こうした人間の基本的性質があるからだ、ということになります。

古代ギリシアや中世の日本の文物は、現代ヨーロッパのバーリンにとっては非常に遠く離れた世界であり、また世界観や人間観です。そこに人間として「共通な何らかの価値がなければ、それぞれの文明は外からは入れないそれ自身の風船のようなものの中に封じ込められ、われわれはまったく理解できないであろう」。でも、現実にはそれから感銘を受けることができる。またたしかに、日本人である私たちは、プラトンやシェイクスピア、カント、それこそアイザイア・バーリンの書いたものにも、共通するものを感じ、またそれを理解し、感銘を受けることができます。

（中略）文化人類学においても世界を捉える場合の一つの大きな見方としてある①文化相対主義という考え方について、一言加えておきたい点があります。それはバーリンが言うような、単に「私はコーヒーが好き、あなたはシャンペーンが好き、二人の好みは違っており、それだけのことだ」ということではありません。世界にはさまざまな多様な文化がありますが、その価値はそれぞれの文化の中に宿っている。10億人を超える中国人の文化であれ、太平洋地域に住む3000人から1万人ぐらしかいないような一つの民族の文化であれ、文化という点では同じく存在するものであり、それぞれの価値があるのだということを、文化相対主義は主張しました。特に1930年代のアメリカの文化人類学者を中心に、こうした見方が文化人類学の中心的な思想になりました。それはレイシズム（人種差別主義）や、西洋文化を頂点として世界の他の文化を段階的に下位に位置づける①「文化発展説」などに対する、大きな批判となりました。人類学者が自ら世界各地で調査研究した成果とその経験に立った理論であったがゆえに、説得力を持つものでした。

注¹： ヘルダー（Herder, Johann Gottfried, 1744～1803）、ドイツの哲学者、美学者、批評家、言語哲学者。

注²： ヴィーコ（Giambattista Vico, 1668～1744）、イタリアの社会哲学、歴史哲学者。

注³： イギリスの哲学者アイザイア・バーリン（Isaiah Berlin, 1909～1997）の言葉である。以下の引用も同じである。

それはいま、グローバル化と呼ばれる現象とも関係があります。16世紀以来の近代世界において、西欧化から近代化へと展開されてきた変化の中で、どちらかという西欧近代的な、あるいはアメリカ的な価値やものの見方が優先され、世界のさまざまな小さな民族が持つ文化が否定される、あるいは弱小の文化は存在しなくなってもいい、という風潮がありました。それに対して、いろいろな文化の中で生きている人たちにはそれぞれに持っている価値があり、それは尊重しなくては行けないという主張がなされたのです。ですから、「私はコーヒーが好き、あなたはシャンペーンが好き、二人の好みは違っている」というだけではなく、そこにはもっと本質的な人間の生き方と価値の発見と評価という問題があったのです。

しかも、近代世界においては、地球上の多くの人々の間では、私はコーヒーが好き、あなたはシャンペーンが好きという主張することが許されなかったわけです。自分たちが祖先以来の土地で、昔から飲んでパパイアから作ったジュースが好きでも、ヨーロッパの基準から見れば、それは近代的な飲み物ではない、野蛮な飲み物である。だから君たちはシャンペーンを飲みたまえ、コーヒーを飲まなくては行けない、ティータイムをつくらなくては行けないと強制される。そうした世界の動きの中で、自分たちの好きなものは好きと言うことに意味があると主張するのが文化相対主義ですから、この点に関してはバーリンのように簡単に片づけることはできません。

ただ、このあとの議論にも関係しますが、②相対主義はともすれば、自分たちがやってきたこと、あるいは自分たちの文化が持っている価値が、絶対であるという主張にもなってしまう。もっとも文化相対主義は、先にも述べたように、アメリカにおける人種主義や人種差別、あるいは近代におけるヨーロッパ文化絶対主義、つまりヨーロッパ文化が人類で一番発達した文化であるという見方に対する批判的反省の中から学問的な形で出てきたものであります。このことは深く認識される必要があると思います。その点が、私がバーリンに対してそう簡単に賛同できないと思うところですが、このことに留意したうえでバーリンが言う多元主義は非常に重要です。相対主義が陥る罠は、あらゆる価値は相対的である、絶対的価値がない、と唱えること自体には意味があっても、同時に相対的であれば何を主張してもいいのか、という点にあります。

いくら文化が違うといっても、理由なき「殺人」は許されることはないし、理由があってもその理由は文化の違いに還元できる性質のものではないはずで、スターリンによる大量虐殺やナチスによるホロコーストを、文化相対主義の名の下に弁護することはできません。人間の生命の尊重を第一とする基本的な立場から見れば、そういうことが許されるはずはなく、そこは文化相対主義で片づけるわけにはいきません。

人間が悲惨な状態に置かれ抑圧されていれば、人類共通の問題として批判し、そうした状況の改善に向かう必要があることは、言うまでもないことです。ですから、世界を見るとき、文化相対主義だけでは不十分なことをよく認め、そのうえで、文化多元主義を主張することが必要です。基本的には、人間がお互いに理解し共感し学び合うことを通して、人間にとつ

てより適切な生き方を考える方向として、文化多元主義を基本に、しかも文化の相対的な違いを尊重するという方向に捉えるべきだと思います。

(出典：青木保『多文化世界』岩波書店、2003年、102-106頁。

なお、出題の都合上、一部文言を変更し、省略を行い、適宜注を付けた。)

問1 文章中の下線部①の「(文化)多元主義」、「文化相対主義」、そして、「文化発展説」という三つの言葉の間の異同について説明しなさい。(220字以内)

問2 文章中の下線部②に「相対主義はともすれば、自分たちがやってきたこと、あるいは自分たちの文化が持っている価値が、絶対であるという主張にもなってしまいます」と述べられているが、それはなぜなのか。問題文の内容を踏まえて説明しなさい。(200字以内)

問3 文化多元主義がなぜ重要なのか。現代世界が直面している課題の中から具体的な事例を挙げて説明し、あなたの考えを述べなさい。(500字以内)